

このひとをじっくり探してみますか？

第23回

笠原五郎吉 かさはら ごろきち

(明治18年～昭和33年)



(個人蔵)

笠原五郎吉は、明治十八(一八八五年)年、榛沢郡黒田村(現深谷市黒田)に生まれました。花園尋常高等小学校を卒業した後、埼玉県が主催した農業や養蚕の講習を受け、農業に従事します。

純血黒豚を譲り受け、農業に養豚を取り入れた『有畜農業』を始めました。また、当時盛んに行われていた養蚕業に欠かせない桑の栽培にも有畜農業が取り入れられ、養豚農家が増えていきました。

大正十(一九二一)年には『黒田養豚組合』を創立し、初代組合長を務めました。組合では、養豚技術向上の研修を行い、さらに、パークシャー種に強いこだわりを持つ五郎吉は、品質の向上にも努めました。大正十一(一九二二)年に豚コシラが大流行した際には、予防接種で克服し、また第二次世界大戦末期の飼料不足の際には、山林を開き、自給飼料を確保するなど、パークシャー種の血統を絶やすことなく守り続けました。



▲昭和30年(1955)年に五郎吉に授与された、養豚功労による黄綬褒章(個人蔵)。養豚事業への五郎吉の功績が大きく評価されていました

しかし、黒田地区では現在もパークシャー種が飼育されています。その肉質は、筋繊維が細く、適度な歯ごたえと脂肪の甘さが特徴で多くの人々に愛されています。信念に従って養豚改良をはじめとした事業をやり遂げる剛毅な人物であり、黒田区長や花園村村会議員を任されるなど、地域の人々に厚く信頼された五郎吉は、昭和三十三年(一九五八)年、七十三歳で亡くなりました。

用語の手引き

『有畜農業』

作物栽培と家畜飼養を組み合わせた農業形態。家畜の力を使った作業能率の向上と家畜排せつ物の耕地への還元を行う

『パークシャー種』

イギリス・パークシャー州を原産とする豚の品種。中型で被毛は黒色

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。

市長の深い話

谷が

深谷市長 小島 進



子育て環境の充実

日本では急速に少子高齢化が進み、平成27年の国勢調査では、大正9年の調査開始以来初めての減少となり、人口減少時代の到来が数字の上でも明らかになりました。

人口減少は地域経済や活力に大きな影響をもたらします。将来にわたって活力あるまちにするためには、未来の深谷を支える子どもを安心して産み・育てることができる環境づくりが不可欠です。そのため市では、さまざまな少子化対策に取り組んでいます。

昨年4月からは、多子世帯の経済的負担軽減を図るため、子どもの年齢や保護者の所得に関係なく、保育園などに入所する第3子以降の子どもの保育料を無料にしています。

また、平成29年度からも、新たな子育て支援が始まります。まず、妊娠・出産から子育て期にわたるさまざまな不安や悩みごとについて、保健師などの専門職が相談に応じ、切れ目のない支援を行う『子育て世代包括支援センター』を保健センター内に設置します。それに合わせて、出産直後の母子への心身ケアや育児支援を行う事業も始めます。

また、保育園や幼稚園に通っていない4・5歳児の子育てに関する相談機会として、『4・5歳の未就園児の家庭訪問』を行います。子どもたちの安全安心対策としては、市内小学校に在籍する全ての児童を対象にヘルメットの購入実費を補助する『ふっかちゃんヘルメットサポート事業』をふっかちゃん子ども福祉基金を活用して始めます。

ご紹介した事業は、取り組みの一部ですが、今後も安心して子どもを産み・育てることのできる環境づくりを進めていきますので、よろしくお願ひします。

ありがとうの手紙



優秀賞

高校生・大学生の部
お母さんへ

深谷高校1年(現2年) 棚澤歩里さん

毎日仕事から帰ってきてすぐに私達のご飯を作ってくれて、洗濯をする。そんなことはあたりまえだと思っていた。ただお母さんが風邪をひいて寝込んでしまったとき、そんなことがあたりまえではないとわかった。私が代わりに作ったご飯は美味しくなくお母さんはとても大変だと思い知った。いつもケンカばかりして手伝いもしなく迷惑かけてごめんね。毎日忙しいのにごめんね。これからはたくさん手伝うからゆっくりしてね。お母さん、いつもありがとう。



優秀賞

高校生・大学生の部
おばあちゃんへ



東京成徳大学深谷高校2年(現3年) 高橋彩夏さん

「お帰り。」と大きな特徴のある声で毎日私たち三兄弟の帰りを家で待っているおばあちゃん。親が遅くまで仕事をしてるから、家に帰ってくればいつも笑顔で出むかえてくれるよね。おばあちゃんが作るごはんはママ以上においしくて、とっても笑顔になれる。毎日家に笑いと福を招いてくれるおばあちゃんに何回くらい助けられたら。いつも感謝の言葉でいっぱいです。私もおばあちゃんのような存在になれるといいな。これからも元気なばあばでいてね。